



AXIS I5304 Network Answering Unit

ユーザーマニュアル

目次

使用に当たって	4
ネットワーク上のデバイスを検索する	4
デバイスを使用して現在のIPアドレスを取得します。	4
ブラウザーサポート	4
装置のwebインターフェースを開く	4
安全なパスワード	5
デバイスソフトウェアをアップグレードする	5
デバイスを構成する	6
IPアドレスの設定	6
[RESET (リセット)] ボタンでIPアドレスモードを変更する	6
ユーザー証明書のアップロード	7
カスタム言語の設定	7
通話の設定	8
Axisインターホンでの通話設定	8
SIPプロキシー経由の通話	9
DTMFを使用してドアのロックを解除する	9
Axisカメラのビデオを表示する	10
ドアベルを接続する	11
デバイスのディスプレイからHTTPコマンドを送信する	11
ロック解除ボタンを追加する	12
時間プロファイルを作成します。	12
webインターフェース	13
状態	13
デバイス	13
サービス	13
通話記録	13
イベント	14
アドレス帳	15
デバイス	15
時間プロファイル	17
祝祭日	18
呼び出し中	19
SIP	20
ローカル通話	25
サービス	26
ロック解除	26
HTTPコマンド	26
ユーザーサウンド	27
Webサーバー	29
天気	31
ハードウェア	31
音声	31
カメラ	31
ディスプレイ	34
デジタル入力	35
システム	36
ネットワーク	36
日付と時刻	37
機能	38
証明書	38
自動プロビジョニング	40
診断	41

メンテナンス	44
ディスプレイインターフェース	46
ホーム画面	46
通話記録	46
アドレス帳	47
設定	48
仕様	50
製品概要	50
ポート	50
コネクター	51
ネットワーク コネクター	51
電源およびドアベルのコネクター	51
ヒアリングループコネクター	51
ボタン	52
リセットボタン	52
装置を清掃する	53
トラブルシューティング	54
工場出荷時の設定にリセットする	54
デバイスを再起動	54
サポートに問い合わせる	54

使用に当たって

ネットワーク上のデバイスを検索する

ネットワーク上のデバイスを検索してIPアドレスを割り当てるには、2N® Network Scannerを使用します。このアプリケーションは、2NのWebサイト (2n.com) からダウンロードできます。インストールする前に、必ずMicrosoft® .NET Framework 2.0をインストールしてください。

1. 応答ユニットに電源とネットワークを接続します。
2. 2N Network Scannerを起動します。ネットワークで使用できるすべてのデバイスが、自動的にリストに表示されます。
3. ブラウザからデバイスにアクセスするには、デバイスを右クリックして [Browse (参照)] を選択します。
4. デバイスのIPアドレスを変更するには、[Config (設定)] を選択して静的IPアドレスを入力するか、DHCPを有効にします。

注

- デバイスがグレー表示されている場合、2N Network ScannerでIPアドレスを設定することはできません。ネットワークスキャナーでデバイスを検出するには、ネットワークがマルチキャストをサポートしている必要があります。

デバイスを使用して現在のIPアドレスを取得します。

現在のIPアドレスは、デバイスのディスプレイまたは [RESET (リセット)] ボタンを使用してデバイス自体から取得できます。

デバイスのディスプレイを使用する:

1. [Settings (設定)] をタップします。
2. [About (詳細情報)] をタップします。

[IP ADDRESS (IPアドレス)] でアドレスを確認できます。

[RESET (リセット)] ボタンを使用する:

1. [RESET (リセット)] ボタンを押し続けます。
2. 赤色と緑色のLEDが同時に点灯し、音響信号  が聞こえたら、[RESET (リセット)] ボタンを放します。
これには約15~35秒かかります。

ボタンを放すと、デバイスがスピーカーを通じて現在のIPアドレスを通知します。

ブラウザーサポート

以下のブラウザーでデバイスを使用できます。

	Chrome™	Firefox®	Edge™	Safari®
Windows®	推奨	推奨	✓	
macOS®	推奨	推奨	✓	✓
Linux®	推奨	推奨	✓	
その他のオペレーティングシステム	✓	✓	✓	✓*

装置のwebインターフェースを開く

1. ブラウザを開き、デバイスのIPアドレスを入力します。

2. ユーザー名とパスワードを入力します。デフォルトのユーザー名とパスワードは以下の通りです。
 - Username (ユーザー名):管理者
 - パスワード: pass

初めてデバイスにアクセスする場合は、デバイスのパスワードを変更する必要があります。

装置のwebインターフェースにあるすべてのコントロールとオプションの説明については、を参照してください。

安全なパスワード

重要

ネットワーク上でパスワードやその他の機密設定を行う場合は、HTTPS (デフォルトで有効になっています) を使用してください。HTTPSを使用すると、安全で暗号化された形でネットワークに接続できるため、パスワードなどの機密データを保護できます。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストールで使用できるようにするためにパスワードポリシーを強制しません。

データを保護するために、次のことが強く推奨されています。

- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

デバイスソフトウェアをアップグレードする

デバイスに初めてログインする際に、デバイスのソフトウェアをアップグレードすることをお勧めします。最新版は axis.com/support/device-software からダウンロードすることができます。

1. [System (システム)]> [Maintenance (メンテナンス)] の順に移動します。
2. [Upgrade Firmware (ファームウェアをアップグレード)] をクリックし、ダウンロードしたファイルを選択します。
3. [Upload (アップロード)] をクリックします。

ファイルのアップロード後アップグレードが完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

デバイスを構成する

このセクションでは、ハードウェアのインストールが完了した後に製品を起動して実行するために、設置者が行う必要のあるすべての重要な設定について説明しています。

IPアドレスの設定

デバイスはLANに接続されており、有効なIPアドレスを割り当てるか、LAN DHCPサーバーからIPアドレスを取得する必要があります。デフォルトでは、デバイスはDHCPサーバーを使用してIPアドレスを割り当てるよう設定されています。

WebインターフェースでIPアドレスとDHCPを設定できます。

- [System (システム)] > [Network (ネットワーク)] > [Basic (基本)] に移動します。
- DHCPサーバーを使用して自動的にIPアドレスを割り当てるには、[Use DHCP Server (DHCPサーバーを割り当てる)] を選択します。
- 静的なIPアドレスを設定するには、まず [Use DHCP Server (DHCPサーバーを割り当てる)] の選択を解除します。次に、[Static IP Address Setting (静的IPアドレスの設定)] に移動し、[Static IP Address (静的IPアドレス)]、[Network Mask (ネットワークマスク)]、[Default Gateway (デフォルトゲートウェイ)] を入力します。
- 手動DNS設定を使用するには、[DNS Setting (DNS設定)] から [Always Use Manual Setting (常に手動設定を使用する)] を選択します。

注

[Always Use Manual Setting (常に手動設定を使用する)] はDHCPサーバーを使用する場合にのみ選択できます。静的なIPアドレスを使用する場合は、必ずDNSサーバーアドレスを設定する必要があります。

- プライマリDNSとセカンダリDNSを入力します。
- [Network Identification (ネットワークネットワークの識別)] から [Hostname (ホスト名)] と [Vendor Class Identifier (ベンダークラスの識別)] を入力してデバイスを識別します。
- VLANを使用するには、[VLAN Settings (VLANの設定)] から [VLAN Enabled (VLANを有効にする)] を選択して [VLAN ID] を入力します。VLAN IDは1~4096の数字である必要があります。
- [Network Interface Settings (ネットワークインターフェースの設定)] から [Required Port Mode (必要なポートモード)] と [Advertised Modes (アドバタイズメントモード)] を選択します。
[Current Port State (現在のポートの状態)] に、現在の設定が表示されます。
-  をクリックして変更を保存します。

[RESET (リセット)] ボタンでIPアドレスモードを変更する

[RESET (リセット)] ボタンを使用して、DHCPのオン/オフの切り替えやIPアドレスモードの変更が可能です。

DHCPをオフにし、静的IPアドレスモードをオンにする：

- [RESET (リセット)] ボタンを押し続けます。
- 次の状態になったらボタンから手を離します。
 - 赤色と緑色のLEDが同時に点灯し、音響信号  が聞こえる。これには約15~35秒かかります。
 - 赤色のLEDが消灯し、音響信号   が聞こえる。これには、さらに約3秒かかります。

3. [RESET (リセット)] ボタンを放します。

注

デバイスがネットワークパラメーターをデフォルト設定に戻す：

- IP address (IPアドレス): 192.168.1.100
- Network mask (ネットワークマスク): 255.255.255.0
- Default gateway (デフォルトゲートウェイ): 192.168.1.1

DHCPをオンにし、静的IPアドレスモードをオフにする：

1. [RESET (リセット)] ボタンを押し続けます。
2. 次の状態になったらボタンから手を離します。

2.1. 赤色と緑色のLEDが同時に点灯し、音響信号  が聞こえる。これには約15~35秒かかります。

2.2. 赤色のLEDが消灯し、音響信号   が聞こえる。これには、さらに約3秒かかります。

2.3. 緑色のLEDが消灯し、音響信号    が聞こえる。これには、さらに約3秒かかります。

3. [RESET (リセット)] ボタンを放します。

ユーザー証明書のアップロード

1. [System (システム)] > [Certificates (証明書)] > [User Certificates (ユーザー証明書)] の順に移動します。
2.  をクリックして、証明書または秘密鍵をアップロードします。
3. 証明書IDを入力します。
4. ユーザー証明書または秘密鍵をアップロードします。
5. 密密鍵をアップロードする場合は、[Private Key Password (秘密鍵のパスワード)] を入力します。
6. [Upload (アップロード)] をクリックします。

注

- 2048ビットより長いRSA秘密鍵が割り当てられている証明書が拒否された場合は、以下のメッセージが表示されます。
- ECC (楕円曲線暗号) に基づく証明書の場合は、secp256r1 (prime256v1やNIST P-256とも呼ばれる) とsecp384r1 (NIST P-384とも呼ばれる) 曲線のみを使用します。

カスタム言語の設定

1. 言語をカスタム言語に設定するには、[Hardware (ハードウェア)] > [Display (ディスプレイ)] > [User Localization (ユーザーインターフェイス)] に移動します。
2.  をクリックして、オリジナルの言語ファイルをダウンロードします。
3. ダウンロードしたファイルの英語のテキストを新しい言語に置き換え、保存します。
4.  をクリックして、翻訳された言語ファイルをアップロードします。
5. [Hardware (ハードウェア)] > [Display (ディスプレイ)] > [Basic Settings (基本設定)] に移動します。
6. [Language (言語)] のドロップダウンメニューで [Custom (カスタム)] を選択します。

7.  をクリックして保存します。
8. デバイスのディスプレイで翻訳が正しいことを確認してください。

通話の設定

Axisインターホンでの通話設定

応答ユニットをAxisインターホンに接続すると、着信の受信や発信に加え、インターホンに接続されたロックの制御も可能になります。

AXIS I5304の設定

Enable SIP (SIP の有効化):

1. Webインターフェースで、[Calling (通話)] > [SIP 1] > [Configuration (設定)] に移動します。

2. [SIP Account Enabled (SIPアカウントの有効化)] を選択します。

次の手順に沿ってインターホンを追加します。

3. [Directory (ディレクトリ)] > [Devices (デバイス)] に移動します。

4. [+ Add device (装置を追加)] をクリックします。

5. [Device Name (デバイス名)] にインターホンの名前を入力します。

6. [Device Type (デバイスタイプ)] のドロップダウンメニューで、[Axis Door Station (Axis ドアステーション)] を選択します。

7. [Phone Number (電話番号)] に、インターホンのIPアドレスを `sip:[ip-address]` の形式で入力します。

8. [Display (ディスプレイ)] で、[Display Device (ディスプレイデバイス)] を選択します。

9. [Unlock Button Function (ロック解除ボタン機能) の [UNLOCK CODE (ロック解除コード)] にDTMFコードを入力します。

デフォルトのDTMFコードは `00` です。

10.  をクリックして保存します。

Axisインターホンから応答ユニットに電話をかけるには、まずSIPを設定し、次に応答ユニットを連絡先として追加し、最後にコールボタンを設定する必要があります。この例では、インターホンをピアツーピア通信向けに設定します。

Axisインターホンの設定

SIPを設定する:

1. インターホンのWebインターフェースで、[Communication (通信)] > [SIP Settings (SIPの設定)] に移動します。

2. [Enable SIP (SIPの有効化)] と [Allow Incoming SIP calls (SIP通話の着信を許可)] を選択します。

3. [保存] をクリックします。

連絡先としてネットワーク応答ユニットを追加する:

4. [Communication > Contact list (通信 > 連絡先リスト)] に移動します。

5. [+ Add contact (連絡先を追加)] をクリックします。

6. 応答ユニットの名前を入力します。

7. 応答ユニットのIPアドレスを `sip:[ip-address]` の形式で入力します。

8. 呼び出し元のSIPアカウントを選択します。

注

可用性オプションは、[System (システム)] > [Events (イベント)] > [Schedules (スケジュール)] で定義します。

9. 連絡先の [Availability (可用性)] を選択します。連絡先が対応できないときに呼び出しがあった場合、フォールバックがない限り、呼び出しはキャンセルされます。

注

フォールバックとは、元の連絡先が応答しない場合、または対応できない場合に転送される連絡先です。

10. 必要に応じて、[Fallback (フォールバック)] にフォールバック連絡先を選択します。

11. [保存] をクリックします。

インターホンのコールボタンを設定する:

12. [Communication > Calls > Call button (通信 > 呼び出し > 呼び出しボタン)] に移動します。

13. [Recipients (送信先)] で、ドロップダウンメニューから応答ユニットを選択します。

インターホンから電話がかかってきたときに、応答ユニットを使用してドアのロックを解除する方法については、を参照してください。

Axisインターホンの設定の詳細については、お使いのインターホンのユーザーマニュアル (help.axis.com) を参照してください。

SIPプロキシー経由の通話

SIPプロキシーは、通話のルーティングを制御するIPネットワークサーバーです。SIPプロキシーは、通話を送信先に近い別のエンティティに転送します。ユーザー間に複数のSIPプロキシーが存在することもあります。

注

この例では、以下のパラメーターを使用して説明します。

- SIPプロキシーおよびSIPレジストラ: 192.168.50.252
 - 電話番号 (ID): 201 (応答ユニット用)、203 (発信先デバイス用)
 - ポート番号: 5060
1. [Calling (通話)] > [SIP 1] > [Configuration (設定)] にアクセスしてデバイスを登録します。
 2. [SIP Account Enabled (SIPアカウントの有効化)] を選択します。
 3. [Device Identity (デバイスID)] に、以下の情報を入力します。
 - Display Name (ディスプレイ名): デバイスの名前
 - Phone Number (電話番号) (ID): 201
 - Domain (ドメイン): 192.168.50.252
 4. [SIP Proxy (SIPプロキシー)] および [SIP Registrar (SIPレジストラ)] に以下の情報を入力します。
 - Domain (ドメイン): 192.168.50.252
 - Port (ポート): 5060
 5. デバイスに認証が必要な場合は、[Authentication ID (認証ID)] および [Password (パスワード)] を入力します。
 6. [Directory (ディレクトリ)] > [Devices (デバイス)] に移動し、発信先のデバイスを追加します。
 7. 新規ユーザーを追加し、電話番号 (この例では203) を入力します。
 8.  をクリックして保存します。

DTMFを使用してドアのロックを解除する

Axisインターホンから応答ユニットに電話がかかってきた場合、DTMF (デュアルトーン多重周波数) 信号を使用してドアのロックを解除することができます。

開始する前に、以下をご確認ください。

- AxisインターホムでSIP通話を設定します(を参照)。

注

- 応答ユニットでは、DTMFがデフォルトで有効になっています。DTMFの設定を変更する必要がある場合は、[Calling (通話)] > [Audio (音声)] > [SIP 1] に移動します。
- 応答ユニットのデフォルトのDTMFコードは00です。この例では、このコードを使用して説明します。

この例では、次の方法について説明します。

- AxisインターホムのDTMF信号を設定する。
- 内部リレーを使用してドアのロックを解除するようにインターホムを設定する。

Axisインターホムの設定

インターホムのDTMF信号を設定する。

- [Communication (通信)] > [SIP] > [DTMF] に移動します。
- [+ Add sequence (シーケンスを追加)] をクリックします。
- [Sequence (シーケンス)] に「00」と入力します。
- [Description (説明)] に、「Unlock door (ドアロック解除)」と入力します。
- [Accounts (アカウント)] で、SIPアカウントを選択します。
- [保存] をクリックします。

内部リレーを使用してドアのロックを解除するようにインターホムを設定する:

- [System > Events > Rules (システム > イベント > ルール)] に移動し、ルールを追加します。
- [Name (名前)] フィールドに「DTMF unlock door (DTMF ドアロック解除)」と入力します。
- 条件リストの [Call (呼び出し)] で、[DTMF] を選択し、続いて [Unlock door (ドアのロック解除)] を選択します。
- アクションのリストから [I/O] で [Toggle I/O once (I/Oを一度切り替える)] を選択します。
- ポートのリストから、[Relay 1 (リレー1)] を選択します。
- 継続時間 を 00:00:07 に変更します。この場合、ドアのロックが7秒間解除されます。
- [保存] をクリックします。

Axisインターホムから着信があった場合、インターホムに接続されているドアのロックを解除することができます。

Axisカメラのビデオを表示する

応答ユニットに外部のAxisカメラを接続することができます。インターホムからの着信時に、画面にカメラのビデオストリームを表示するオプションがあります。この応答ユニットでは、H.264またはMJPEGコーデックを使用して、30フレーム/秒で最大1280x720ピクセルの解像度を提供する標準IPビデオカメラからのRTSPストリームを使用できます。

要件:

- 常に最新のファームウェアを使用することをお勧めします。
- 接続されたインターホム。詳細については、を参照してください。
- 上記の要件を満たすRTSPストリーム対応Axisカメラ。

応答ユニットにカメラを追加する

注

設定については、外部IPカメラログ のセクションを参照してください。ここでは、外部カメラとの基本的な通信を確認できます。

1. 応答ユニットのWebインターフェースで、[Hardware (ハードウェア)] > [Camera (カメラ)] に移動し、番号の付いたタブのいずれかを選択します。
2. [Camera Enabled (カメラの有効化)] を選択します。
3. [Camera Assignment (カメラの割り当て)] で [+] をクリックし、リストから接続されたインターフォンを選択します。
4. [Settings (設定)] で、カメラの [Display Name (ディスプレイ名)] を入力します。これは、デバイスのディレクトリに表示されます。
5. 使用するカメラの [RTSP Stream Address (RTSPストリームアドレス)] を入力します。次のRTSPストリームアドレス形式を使用してください：rtsp://[ip-address]/axis-media/media.amp?videocodec=h264&resolution=1280x720。
6. カメラ接続用の [Username (ユーザー名)] および [Password (パスワード)] を入力します。これは、カメラが認証を使用する場合にのみ必要です。
7. [Local RTP Port (ローカルRTPポート)] を入力します。
8.  をクリックして保存します。

すべて正しく設定されている場合は、応答ユニットの Camera Preview (カメラプレビュー) にカメラのライブビューが表示されます。

ドアベルを接続する

ドアベルボタンを使用すると、他のデバイスを使用せずにデバイスを直接呼び出すことができます。ボタンを押すと、設定に基づいてデバイスが鳴り始めます。

この設定を行うには、AXIS I5304、ドアベル (ボタン)、2芯ケーブルが必要です。

ドアベルを接続する

1. 応答ユニットをホルダーから取り外します。
2. ディスプレイを傷つけないよう、柔らかい表面に画面を下向きにしてデバイスを置きます。
3. デバイスの背面に、2芯ケーブルを接続します。

ドアベルの音を調整する

- 着信音を変更するには、[Services (サービス)] > [User sounds (ユーザーサウンド)] > [Sound Mapping (サウンドマッピング)] に移動し、[Doorbell (ドアベル)] のドロップダウンメニューから着信音を選択します。
- 音量を設定するには、[Hardware (ハードウェア)] > [Audio (音声)] に移動します。[Phone Call Volume (通話時の音量)] で、[Ringtone Volume (着信音の音量)] の音量をdB単位で設定します。

デバイスのディスプレイからHTTPコマンドを送信する

ディスプレイのホーム画面のボタンでHTTPコマンドを送信するようにデバイスを設定することができます。

ホーム画面に最大3つの異なるHTTPコマンドを設定し、それぞれのコマンドに対応するボタンを設定できます。ボタンをタップすると、デバイスがコマンドを送信します。

注

HTTPコマンドは HTTP APIマニュアル またはHTTP API TESTToolに記載されています。

HTTP APIマニュアルについては、wiki.2n.com/hip/hapi/latest/jaをご覧ください。TESTToolにアクセスするには、インターフォンのIPアドレスを入力して最後に /apitest.html と入力します (例: <https://192.168.49.88/apitest.html>)。

この例では、ネットワークインターフェースでスイッチ1をトリガーし、スイッチ2を開いた状態に保つためのコマンドを設定する方法を示します。

1. [Services (サービス)] > [HTTP Command (HTTPコマンド)] > [Home Screen HTTP Command Setting (ホーム画面HTTPコマンド設定)] に移動します。
2. 1行目のURLの下に、スイッチ1のHTTPコマンド `https://[ip-address]/api/switch/ctrl?switch=1&action=on` を入力します。
[ip-address] をデバイスのアドレスに置き換えます。
3. 2行目のURLの下に、スイッチ2のHTTPコマンド `https://[ip-address]/api/switch/ctrl?switch=2&action=hold` を入力します。
[ip-address] をデバイスのアドレスに置き換えます。
4. コマンドごとに、ディスプレイのホーム画面のアイコンを選択します。
5. 各コマンドの名前を入力します。
6. 各コマンドのユーザー名を入力します。これは、コマンドを受信するデバイスに認証用のHTTP APIアカウントが設定されている場合に必要です。
7. 各コマンドのユーザー名に使用するパスワードを入力します。
8.  をクリックして保存します。

ロック解除ボタンを追加する

1. ディスプレイ上で、IPインターフェースのアクティベーションコードを設定します。
2. Webインターフェースで、[Directory (ディレクトリ)] > [Devices (デバイス)] に移動します。
3. インターフェースを追加するには、[Add device (デバイスを追加)] をクリックします。
4. [Basic settings (基本設定)]、[Cameras (カメラ)]、[Display (ディスプレイ)]、[Call Button Function (コールボタン機能)]、[Alarm call (アラームコール)] に必要な情報を入力します。
5. [Unlock Button Function (ロック解除ボタン機能)] の [Unlock code (ロック解除コード)] にスイッチ起動コードを追加します。各ボタンに固有の名前を付けることもできます。
6.  をクリックして保存します。

時間プロファイルを作成します。

[Do Not Disturb Mode With Time Profile (時間プロファイルによるサイレントモード)] で時間プロファイルを使用するには、まず時間プロファイルを設定しておく必要があります。

1. [Directory (ディレクトリ)] > [Time Profiles (時間プロファイル)] に移動します。
2. 見出しの数字を選択します。
3. [Basic Settings (基本設定)] で、プロファイルの名前を入力します。
4. スケジュールに追加する日のタイムラインをクリックします。
5. 時間を調整し、 をクリックして保存します。
6.  をクリックして時間プロファイルを保存します。

webインターフェース

装置のwebインターフェースにアクセスするには、Webブラウザーで装置のIPアドレスを入力します。

Language (言語):一時的に言語を設定するには、いずれかの言語コードをクリックします。

Log out (ログアウト):クリックすると、Webインターフェースからサインアウトされます。

 : フィードバックを送信します。

 : 設定セクションのヒントを表示します。

状態

デバイス

Device Info (デバイス情報):デバイス名やハードウェアバージョンなど、デバイスに関する情報を一覧表示します。

- **Factory Certificate Installed (工場証明書のインストール状況)**:ユーザー証明書と秘密鍵がインストールされているかどうか、インターネットが自動設定サーバー(ACS)と通信する権限を検証できるかどうかが表示されます。
- **Locate Device (デバイスを検索)**:クリックすると、デバイスの光信号と音響信号の発信が開始されます。デバイスのコントロールバックライトが点灯し、音が鳴り始めます。デバイスにスピーカーが内蔵されていない場合は、外部スピーカーを接続して音響信号を使用します。

サービス

Network Interface Status (ネットワークインターフェースの状態):ネットワークに関する状態と情報が表示されます。

Phone status (SIP1) (電話の状態 (SIP1)): SIP 1経由の電話に関する状態と情報が表示されます。

Phone status (SIP2) (電話の状態 (SIP1)): SIP 2経由の電話に関する状態と情報が表示されます。

通話記録

このリストには直近20件の履歴が含まれ、最新の通話から順に表示されます。Search (検索)バーを使用して、名前に基づいて通話記録を検索できます。

Search (検索): 名前に基づいて通話記録を検索できます。

名前: 通話を発信または着信したデバイス名。

Date and Time (日付と時刻): 通話を発信または着信した日付と時刻。

Call Duration (通話時間): 通話時間 (秒)。

: 発信を示します。

: 不在着信を示します。

: 着信を示します。

: 応答が別の場所で行われたことを示します。

: ヘッダー一行のアイコンをクリックすると、選択した行の通話記録またはすべての通話記録が削除されます。

イベント

デバイスがキャプチャーした直近500件のイベントを表示します。ドロップダウンメニューでイベントのタイプを絞り込むことができます。

TIME (時刻): イベントが発生した時刻が表示されます。

EVENT TYPE (イベントタイプ): 発生したイベントのタイプが表示されます。利用可能なイベントタイプの詳細については、以下のリストを参照してください。

- **ApiAccessRequested**: リクエストが「/api/accesspoint/grantaccess」に送信され、結果が「"success" : true」であるたびに生成されます。
- **CallSessionStateChanged**: 通話の方向/状態、アドレス、セッション番号、通話シーケンス番号を説明記述します。
- **CallStateChanged**: 通話状態が変化したときの通話方向と相手/SIPアカウント識別を示します。
- **CapabilitiesChanged**: デバイスの使用可能な機能リストの変更について記述します。
- **ConfigurationChanged**: デバイス設定の変更を記述します。
- **DeviceState**: デバイスの起動など、デバイスの状態の変化を記述します。
- **DtmfEntered**: 通話中または非通話中にローカルで受信したDTMFコード。
- **DtmfSent**: 通話中または非通話中にローカルで送信したDTMFコード。
- **ExternalCameraStateChanged**: 接続された外部カメラの状態の変化を記述します。
- **InputChanged**: ロジック入力の状態の変化について記述します。
- **KeyPressed**: ボタンを押したときに生成されます (テンキーの数字は0、1、2...、9、 クイックダイヤルボタンは%1、%2...)。
- **KeyReleased**: ボタンを放したときに生成されます (テンキーの数字は0、1、2...、9、 クイックダイヤルボタンは%1、%2...)。
- **LoginBlocked**: Webインターフェースへのログインの試行に3回失敗した場合に生成されます。IPアドレスに関する情報が含まれます。
- **RegistrationStateChanged**: SIPプロキシー登録状態の変更について記述します。

DESCRIPTION: イベントタイプの詳細を表示します。

アドレス帳

デバイス

Find Device (デバイスの検索):クリックすると、ローカルネットワークで使用可能なデバイスを検索できます。

Add Device (デバイスを追加):クリックして新規デバイスを追加します。



:ディレクトリから既存の連絡先リストを.csv形式でダウンロードします。



:.csv形式の連絡先リストをディレクトリにインポートします。

- **Replace Directory (ディレクトリの置換)**:既存のディレクトリをインポートしたファイルに置き換える場合に選択します。
- **Import to Directory (ディレクトリへのインポート)**:連絡先リストをインポートして既存のディレクトリに追加する場合に選択します。

Search (検索) : デバイス名または電話番号を検索できます。

タイプ:デバイスのタイプが表示されます。

名前:デバイスの名前。

Phone Number (電話番号):デバイスの電話番号。

機能:次のアイコンでデバイスの機能を示します：

- :ディスプレイにデバイスが表示されます。
- :ドアベルを押すと、デバイスがアラームコールを設定します。
- :デバイスが着信を許可します。

新しいデバイスを検索または追加するには、[Find Device (デバイスを検索)] または [Add Device (デバイスを追加)] をクリックします。既存のデバイスを編集するには、 をクリックしてください。デバイスの追加または編集を行うための設定メニューには、以下が含まれます。

基本設定

- **Device name (デバイス名)**: 選択した連絡先のデバイス名を入力します。このパラメーターはオプションで、ディレクトリ内のアイテムをより簡単に見つけるのに役立ちます。
- **Displayed Icon (表示アイコン)**: 標準アイコンまたは受付アイコンのどちらを使用するかを選択します。
- **[Device Type (デバイスタイプ)]**: 追加するデバイスのタイプを選択します。
- **Phone Number (電話番号)**: 呼び出しをルーティングするステーションの電話番号を入力します。
 - ダイレクトSIP通話の場合は、`sip:[user_id@]domain[:port]`を入力します (例：`sip:200@192.168.22.15`または`sip:name@yourcompany`)。
 - 2Nデバイスを呼び出す場合は、`device:device_name`を入力します。
 - モバイルアプリケーションでデバイス名を設定します。電話番号の後に`/1`または`/2`(アカウント1または2)を入力し、発信に使用するSIPアカウントを指定します。
 - 通話を暗号化または非暗号化するには、`/S`または`/N`を入力します。アカウントと暗号化の選択は、`/1S`などのサフィックスで組み合わせることができます。
- **Individual Ringtone (個別の着信音)**: 連絡先に個別の着信音を設定できます。
- **Enable Viewing the Intercom's External Camera (インターホンの外部カメラの表示を有効にする)**: 2Nインターホンに接続された外部カメラのストリームへの切り替えを有効にします。このオプションを選択すると、通話中やプレビュー中に外部カメラボタンが表示されます。
- **Face Zooming Button (顔ズームボタン)** : ビデオ通話中に、相手側の端末が顔を監視できるかどうかを設定できます。このオプションを選択すると、通話中や通話プレビュー中に顔監視ボタンが表示されます。
- : クリックすると電話番号の詳細を編集することができます。
 - **Call Type (通話タイプ)**: 呼び出し先のURIのスキームを設定します。
 - **[unspecified] (指定なし)**を選択した場合: URIはSIPアカウント設定のデータを使用します。
 - **sip:**ダイレクトSIP通話 (`sip:...`)。
 - **device:** 2Nローカル通話 (`device:...`)。
 - **rava:** Crestronデバイスの呼び出し (`rava:...`)。
 - **vms:** AXIS Camera StationなどのVMSを使用した通話 (`vms:...`)。
 - **Destination (呼び出し先)**: 呼び出し先のURIの他の部分を設定します。通常、番号、IPアドレス、ドメイン、ポート、またはデバイス識別子が含まれます。VMSに発信する場合はアスタリスク (*) を入力します。
 - **Preferred SIP Account (優先SIPアカウント)**: 通話に使用するSIPアカウントを選択します。
 - **Call Encryption (通話の暗号化)**: 暗号化された通話または暗号化されていない通話のどちらを使用するかを選択します。
 - **Door Opening (ドア解錠)**: 選択すると、コールバックを通じてドアを開けることができます。

カメラ

- **Cameras Assigned to This Device (このデバイスに割り当てるカメラ):**ビデオ通話中にこのデバイスで表示される順番で、カメラの番号1~16をカンマで区切って入力します。[Hardware (ハードウェア)] > [Camera (カメラ)] でカメラを設定します。

ディスプレイ

- **Display Device (デバイスを表示):**選択すると、このデバイスが表示されます。
- **Display on Top (上部に表示):**選択すると、このデバイスがリストの一番上に表示されます。
- **Alternative Name (代替名):**デバイス名の代わりに表示する名前を入力します。

コールボタン機能

- **Start Call on Short Press (ショートプレスで発信):**選択すると、コールボタンを軽く押すことで選択したデバイスに発信できます。設定されている連絡先が1つだけの場合、ロツクボタンを短く押すとドアが開きます。

アラームコール

- **Start Call With Doorbell Button (ドアベルボタンで発信):**選択すると、誰かがアラームコールボタンを押したときに、このデバイスに電話が発信されます。ドアベルアラームコール機能は、[Hardware (ハードウェア)] > [Digital inputs (デジタル入力)] > [Doorbell button (ドアベルボタン)] で設定します。

ロック解除ボタン機能

- **名前:** ロック解除ボタンの名前を入力します。
- **Lift (エレベーター):**選択すると、ドアロック/ロック解除ボタンのアイコンが表示されます。
- **Unlock Code (ロック解除コード):**ロック解除コードは、ドアリモート操作でロック解除する際に使用します。インターフォンのキーパッドでドアをロック解除するには2文字以上、電話のDTMFでドアをロック解除するには1文字以上がコードに含まれている必要があります。サポートされている文字には*と#が含まれます。少なくとも4文字を使用することをお勧めします。

時間プロファイル

時間プロファイルを設定し、それを「Do Not Disturb (サイレント)モード」に割り当てて、モードが有効になる時間を定義できます。

1、2、3、4...:異なるプロファイル。クリックするとプロファイルが開きます。最大20個のプロファイルを作成できます。

基本設定

- **プロファイル名:**プロファイルの名前を入力します。

Profile Time Sheet (プロファイルのタイムシート):タイムライン上でクリック & ドラッグして、「Do Not Disturb (サイレント)」が許可される時間帯を示す青色のバーを作成します。休日が設定されている場合、曜日に関係なく[Holiday (休日)] の行が適用されます。

時間プロファイルを設定するには、[Calls (通話)] > [General settings (一般設定)] > [Incoming calls (着信)] に移動し、[Do Not Disturb Mode With Time Profile (時間プロファイルによるサイレントモード)] でプロファイルを選択します。

祝祭日

日曜日や祝日などの休日の期間を設定します。

今後10年間の休日を設定するには、画面上部で年を選択してください。祝日を選択または選択解除するには、年間カレンダーを使用します。

年間の固定休日は緑色で、年によって異なる休日は青色で表示されます。日付を1回クリックすると固定休日が追加され、2回クリックすると変動休日が追加されます。リストから祝日を削除するには、3回クリックします。

呼び出し中

一般設定

- **Call Time Limit (通話時間制限)**: 通話制限時間を秒単位で設定できます。通話終了の10秒前にデバイスのビープ音が鳴り、通話制限時間が近づいていることを知らせます。通話中に通話時間を延長するには、任意のDTMF文字を入力します。通話制限時間が0に設定されており、SRTPが使用されていない場合、通話の時間制限はありません。

着信

- **Call Answering Mode (着信応答モード) (SIP 1および2)**: 着信の取り扱い方法を選択します。着信応答モードは、SIPアカウントごとに個別に設定できます。以下の3つのオプションが利用できます。
 - **Always Busy (常にビジー)**: デバイスが着信を拒否します。
 - **Manual Pickup (手動応答)**: デバイスが鳴って着信を知らせ、ユーザーはボタンを押して応答することができます。
 - **Automatic (自動)**: デバイスが自動的に着信に応答します。
- **Local Call Receiving Mode (ローカル着信モード)**: 着信したローカル通話の取り扱い方法を選択します。以下の3つのオプションが利用できます。
 - **Always Busy (常にビジー)**: デバイスが着信を拒否します。
 - **Manual Pickup (手動応答)**: デバイスが鳴って着信を知らせ、ユーザーはボタンを押して応答することができます。
 - **Automatic (自動)**: デバイスが自動的に着信に応答します。
- **VoiceMail Mode (ボイスメールモード)**: 電話に応答しなかった場合にボイスメールを使用するかどうかを選択します。以下の3つのオプションが利用できます。
 - **OFF**: 応答しない場合は通話を終了します。
 - **Away Message Only (離席メッセージのみ)**: 応答しない場合、デバイスが録音メッセージを再生します。
 - **Video Voicemail (ビデオボイスメール)**: デバイスが録音メッセージを再生し、発信者は20秒間メッセージを録音できます。
- **Pick Up In (この時間内に応答)**: デバイスが自動的に応答するまでの時間を秒単位で入力します。このオプションは、応答モードまたはローカル着信モードで [Automatic (自動)] を選択した場合にのみ使用できます。
- **Reject Calls in DND Mode (DNDモード時に着信を拒否)**: 選択すると、Do Not Disturb (サイレント) モード時に自動的に着信を拒否します。このオプションは、通話を携帯電話などへ即座に転送するために使用することができます。
- **Mute Doorbell in DND Mode (DNDモード時にドアベルをミュート)**: 選択すると、ドアベルによる呼び出しがすべてミュートされます。
- **Do Not Disturb Mode with Time Profile (時間プロファイルによるサイレントモード)**: 選択して既定の時間プロファイルを使用するか、手動で個別の時間プロファイルを選択します。時間プロファイルは、[Directory (ディレクトリ)] > [Time profiles (タイムプロファイル)] で作成します。

発信

- **Connection Time Limit (接続時間制限)**: デバイスが発信を終了するまでにネットワークへの接続を試行する時間(秒単位)を設定します。GSMゲートウェイ経由でGSMネットワークに接続する場合は、20秒以上に設定することをお勧めします。
- **Ring time limit (呼び出し時間制限)**: 発信に応答がない場合、デバイスが通話を終了するまでの時間(秒単位)を設定します。GSMゲートウェイ経由でGSMネットワークに接続する場合は、20秒以上に設定してください。最小値: 1秒、最大値: 600秒。時間パラメータを無効にする場合は0に設定します。

通話記録

- **Save Image During Call (通話中の画像を保存)**: 各ビデオ通話中に1枚以上のスナップショットを自動的に撮影し、通話記録に保存します。

注

Save Image During Call (通話中の画像を保存) オプションを無効にすると、システムはすべてのスナップショットを削除しますが、通話記録は保持されます。

- **Automatic Image Count (自動画像の枚数)**: 通話中にデバイスがスナップショットを撮影して保存する枚数を選択します。

高度な設定

- **Starting RTP Port (開始RTPポート)**: 音声およびビデオの送受信に使用される64ポートの範囲内で、開始ローカルRTPポートを設定します。デフォルト値は4900 (4900~4963の範囲) です。このパラメーターは両方のSIPアカウントに適用されます。
- **RTP Timeout (RTPタイムアウト)**: 通話中に音声ストリームのRTPパケットを受信する時間(秒単位)を設定します。この制限を超えた場合(RTPパケットを受信しなかった場合)、デバイスは通話を終了します。このオプションを無効にするには、0を入力します。このオプションは両方のSIPアカウントに適用されます。
- **Extended SIP Logging (拡張SIPログ)**: トラブルシューティングのために、syslogにSIP通話の詳細を記録することを許可します。

SIP

SIPを使用して、インターフォンと応答ユニットなどの2つのSIPデバイス間で通話の設定、終了、転送を行います。SIPデバイスは、直接SIP通話を通じて、または1つ以上のサーバーを通じて、相互に直接接続を確立することができます。

設定

このデバイスでは、2つのSIPアカウント (SIP 1およびSIP 2) を設定できます。

SIP Account Enabled (SIPアカウントの有効化): 選択すると、デバイスのSIPアカウントから発信および着信ができるようになります。

デバイスID

- **Display Name (ディスプレイ名)**: 受信者の携帯電話に表示される名前。
- **Phone Number (ID) (電話番号 (ID))**: デバイスの電話番号、または文字や数字で構成される固有のIDを設定します。ドメインとともに、この番号は通話や登録においてデバイスを一意に特定します。
- **ドメイン (Domain)**: デバイスが登録されているサービスのドメイン名を設定します。通常、SIPプロキシーまたはレジストラのアドレスと同じです。
- **Test Call (テスト通話)**: 選択した電話番号にテスト通話を発信します。

認証

- **Authentication ID (認証ID)**: デバイス認証のための代替ユーザーIDを入力します。
- **パスワード**: デバイスの認証パスワードを設定します。PBXが認証を必要としない場合、パスワードは適用されません。

SIPプロキシー

通話のルーティングを制御するIPネットワークサーバー。ユーザー間には、1つ以上のSIPプロキシユニットが存在する場合があります。

- **Proxy Address (プロキシーアドレス)**: SIPプロキシーのIPアドレスまたはドメイン名を設定します。
- **Proxy Port (プロキシーポート)**: SIPプロキシーポート(通常は5060)を設定します。デフォルトポートを使用する場合は空欄のままにしてください。
- **Backup Proxy Address (バックアッププロキシーアドレス)**: SIPプロキシーのバックアップ用IPアドレスまたはドメイン名を設定します。このアドレスは、メインプロキシーが要求に応答しない場合に使用されます。
- **Backup Proxy Port (バックアッププロキシーポート)**: バックアップ用のSIPプロキシーポート(通常は5060)を設定します。デフォルトポートを使用する場合は空欄のままにしてください。

SIPレジストラ

特定のネットワークセクションでユーザー登録を制御するIPネットワークサーバー。原則として、ユーザーが特定の電話番号で他のユーザーからアクセスできるようにするために、SIPデバイスの登録が必要です。SIPレジストラとSIPプロキシーは、多くの場合、同じサーバーにインストールされます。

- **Registration Enabled (登録の有効化)**: 設定したSIPレジストラでのデバイス登録を有効にします。
- **レジストラアドレス**: SIPレジストラのIPアドレスまたはドメイン名を設定します。
- **Registrar Port (レジストラポート)**: SIPレジストラポート(通常は5060)を設定します。デフォルトポートを使用する場合は空欄のままにしてください。
- **Backup Registrar Address (バックアップレジストラアドレス)**: SIPプロキシーのバックアップ用IPアドレスまたはドメイン名を設定します。このアドレスは、メインレジストラが要求に応答しない場合に使用されます。
- **Backup Registrar Port (バックアップレジストラポート)**: バックアップ用のSIPレジストラポート(通常は5060)を設定します。デフォルトポートを使用する場合は空欄のままにしてください。
- **Registration Expiry (登録有効期限)**: 有効期限(秒単位)を設定します。SIPレジストラはユーザーへの通知なく有効期限を変更することができます。
- **Registration State (登録状態)**: デバイスが登録されているかどうかを表示します。

- **Failure Reason (失敗の理由):**直近の登録試行で失敗した理由を表示します。

高度な設定

- **SIP Transport Protocol (SIPトランSPORTプロトコル) :** SIP通信プロトコルを設定します。UDP(デフォルト)、TCP、TLSのいずれかを選択します。
- **Lowest Allowed TLS Version (許可される最低TLSバージョン) :** デバイスが接続に使用する最低TLSバージョンを設定します。
- **Verify Server Certificate (サーバー証明書の検証) :** SIPサーバーの公開証明書をデバイスのCA証明書と照合します。
- **Client Certificate (クライアント証明書) :** インターコムがSIPサーバーと通信する権限を検証するために使用するクライアント証明書と秘密鍵を指定します。
- **Local SIP Port (ローカルSIPポート) :** SIPシグナリング用にデバイスのローカルポートを設定します。この値を変更した場合、デバイスを再起動するまで反映されません。デフォルト設定値は5060です。
- **PRACK Enabled (PRACKの有効化) :** コード101～199のSIPメッセージの信頼性の高い確認のために、PRACKメソッドを有効にします。
- **REFER Enabled (REFERの有効化) :** 通話転送のSIP REFERメソッドを有効にします。
- **Send KeepAlive Packets (KeepAlive/パケットの送信) :** セットアップ接続を維持するために、デバイスがレジストラにSTUN/CRLF/パケットを定期的に送信し、通話中にSIP OPTIONSを送信するように設定します。
- **IP Address Filter Enabled (IPアドレスフィルターの有効化) :** SIPプロキシーおよびSIPレジストラ以外のアドレスからのSIP/パケットをブロックします。通信セキュリティの向上や不正通話の防止に役立ちます。
- **Receive Encrypted Calls Only (SRTP) (暗号化された通話のみを受信 (SRTP)) :** このアカウントに対してSRTP暗号化された通話のみを受信し、暗号化されていない通話を拒否する場合に設定します。セキュリティ強化のため、SIPトランSPORTプロトコルとしてTLSの使用もお勧めします。
- **Encrypted Outgoing Calls (SRTP) (発信の暗号化 (SRTP)) :** このアカウントからの発信をSRTP暗号化する場合に設定します。セキュリティ強化のため、SIPトランSPORTプロトコルとしてTLSの使用もお勧めします。
- **Use MKI in SRTP Packets (SRTPパケットでMKIを使用) :** SRTPパケットで複数のキーがローテーションされるときに、相手側がマスターキーを識別するためにMKI (Master Key Identifier) を必要とする場合、MKIを使用します。
- **Adaptive Control of Video Quality (画質の適応制御) :** RTCP (RTP/AVPF) 経由でのフィードバック用に拡張RTPプロファイルを使用し、RFC-4585に従ってインタラクティブな画質制御を使用することを許可します。これにより、現在のネットワーク接続の品質に合わせてビデオデータの流れを調整することができます。
- **Do Not Play Incoming Early Media (着信アーリーメディアを再生しない) :** PBXまたは他のデバイスからの通話が応答される前の着信音声ストリーム(アーリーメディア)の再生を無効にします。代わりに、標準的なローカル着信音が再生されます。
- **QoS DSCP Value (QoS DSCP値) :** ネットワーク内のSIPパケットの優先度を10進数で設定します。この値はIPパケットヘッダーのType of Service (TOS) フィールド内に送信されます。この値を変更した場合、デバイスを再起動するまで反映されません。
- **STUN Enabled (STUNの有効化) :** 設定されたSTUNサーバーから取得したアドレスとポートを、SIPヘッダーとSDPメディアネゴシエーションで使用できるようにします。
- **STUN server address (STUNサーバーアドレス) :** このSIPアカウントに使用するSTUNサーバーのIPアドレスを設定します。
- **STUN server port (STUNサーバーポート) :** このSIPアカウントに使用するSTUNサーバーのポートを設定します。

- **External IP Address (外部IPアドレス)**: デバイスが接続されているルーターのパブリックIPアドレス、またはホスト名を入力します。デバイスにパブリックIPアドレスがある場合は、このフィールドは空欄のままにします。
- **Compatibility With Broadsoft Devices (Broadsoftデバイスとの互換性)**: Broadsoft PBX互換性モードを設定します。このモードでPBXから再招待を受け取った場合、応答ユニットは完全なオファーを送信する代わりに、現在使用しているコーデックで最後に送信したSDPを繰り返して応答します。
- **Rotate SRV Records (SRVレコードのローテーション)**: SIPプロキシーとレジストラのSRVレコードのローテーションを許可します。これは、メインサーバーに障害が発生したり、使用できなくなった場合に、バックアップサーバーに切り替えるための代替方法です。

ビデオ

ビデオコーデック

- **Codec (コーデック)**: ビデオコーデックの名前。
- **Enabled (有効)**: 選択すると、ビデオコーデックが有効になります。
- **[Priority (優先度)]**: ビデオコーデックの優先度を設定します。

拡張コーデック設定

- **Profile (プロファイル)**: 利用可能なビデオコーデックのプロファイル。
- **Enabled (有効)**: パケット化モードを有効にします。ペイロードタイプは、手動で設定できない場合に自動で選択されます。
- **SDP Payload Type (SDPペイロードタイプ)**: ビデオコーデックH.264 (パケット化モード1) のペイロードタイプを設定します。96~127の値を設定するか、このコーデックタイプを無効にするには0に設定します。

音声

音声コーデック

- **Codec (コーデック)**: リスト内の音声コーデックの名前。
- **Enabled (有効)**: 選択すると、リスト内の音声コーデックが有効になります。
- **[Priority (優先度)]**: リスト内の音声コーデックの優先度を設定します。

DTMF送信

このセクションでは、デバイスがDTMF文字を送信する方法を設定できます。受信機のDTMF受信オプションと設定を確認し、DTMF送信が正しく動作することを確認してください。

- **In-Band (Audio) (帯域内 (音声))**: 標準化されたデュアルトーンを使用し、音声帯域内でDTMFを送信する従来の方式を使用します。
- **RTP (RFC-2833)**: RFC-2833に従って、RTPを介してDTMFを送信します。
- **SIP INFO (RFC-2976)**: RFC-2976に従って、SIP INFOメッセージを使用してDTMFを送信します。

DTMF受信

このセクションでは、インターホンからDTMF文字を受信する方法を設定できます。送信側のDTMF送信オプションと設定を確認し、デバイスが正しくDTMFを受信できるようにします。

- **In-Band (Audio) (帯域内 (音声))**: 音声帯域内で従来のDTMFデュアルトーン受信方式を使用します。
- **RTP (RFC-2833)**: RFC-2833に従って、RTPを介してDTMFを受信します。
- **SIP INFO (RFC-2976)**: RFC-2976に従って、SIP INFOメッセージを使用してDTMFを受信します。

伝送品質設定

- **QoS DSCP Value (QoS DSCP値)**: ネットワークにおける音声RTPパケットの優先度を設定します。設定値はIPパケットヘッダーのTOS (Type of Service) フィールド内に送信されます。
- **Jitter Compensation (ジッター補償)** : バッファの長さを選択し、音声パケットの到着間隔のばらつきを補正します。設定値が高いほど音のディレイが大きくなりますが、受信の電磁妨害耐性 (イミュニティ) が向上します。

ローカル通話

設定

Local Calls Enabled (ローカル通話の有効化): LAN内の2NデバイスとAXIS I5304 Network Answering Unit間のローカル通話を許可します。ローカル通話をオフにすると、LAN内の他のデバイスは、`device:device_ID`形式でデバイスに発信できなくなります。

ネットワークの識別

- **>Device ID (デバイスID):** 同じLAN上にある他のデバイスのLANデバイスリストに表示するデバイスIDを設定します。このデバイスに電話をかけるには、それらのデバイスに `device:device_ID` としてユーザー電話番号を入力します。
- **Test Call (テスト通話):** 選択した電話番号にテスト通話を発信します。

インターフェースへの接続

- **Access Key 1, 2 (アクセスキー1、2):** 2N応答ユニット、インターフェース、AXIS I5304 Network Answering Unitが共有するアクセスキーを設定します。キーが一致していることを確認してください。一致していない場合、デバイスは通信を行えません。

応答ユニットへの接続

- **Access Key (アクセスキー):** 2N応答ユニット、インターフェース、AXIS I5304 Network Answering Unitが共有するアクセスキーを設定します。キーが一致していることを確認してください。一致していない場合、デバイスは通信を行えません。
- **Multicast Address (マルチキャストアドレス):** 応答ユニットのメッセージを送信するネットワークのマルチキャストアドレスを設定します。

LANデバイス

- **LAN Device Count (LANデバイスの数):** ネットワーク内のローカルデバイスの数を表示します。
- **Show LAN device List (LANデバイスリストを表示する):** [Show (表示)] をクリックすると、ネットワーク内のローカルデバイスの詳細リストが表示されます。

音声

DTMF送信

- **In-Band (Audio) (帯域内 (音声)):** 標準化されたデュアルトーンを使用し、音声帯域内で DTMFを送信する従来の方式を使用します。
- **RTP (RFC-2833):** RFC-2833に従って、RTPを介してDTMFを送信します。
- **SIP INFO (RFC-2976):** RFC-2976に従って、SIP INFOメッセージを使用してDTMFを送信します。

DTMF受信

- **In-Band (Audio) (帯域内 (音声)):** 音声帯域内で従来のDTMFデュアルトーン受信方式を使用します。
- **RTP (RFC-2833):** RFC-2833に従って、RTPを介してDTMFを受信します。
- **SIP INFO (RFC-2976):** RFC-2976に従って、SIP INFOメッセージを使用してDTMFを受信します。

伝送品質設定

- **Jitter Compensation (ジッター補償) :** バッファの長さを選択し、音声パケットの到着間隔のばらつきを補正します。設定値が高いほど音のディレイが大きくなりますが、受信の電磁妨害耐性 (イミュニティ) が向上します。

サービス

ロック解除

設定のロック解除

- **Default Unlock Code (デフォルトのロック解除コード):** ユニットの電話帳に登録されていないデバイス/電話番号への通話に、デフォルトコードを使用します。
- **Hang Up After Door Unlocking (ドアロック解除後に通話を終了する):** ドアロック解除要求が正常に送信されると、通話が終了します。
- **Hang-Up Delay (通話終了のディレイ):** 通話終了までのディレイ時間を設定します。ロック解除要求が送信されると、デバイスは設定時間後に通話を終了します。
- **Show Door Open Sensor(ドア開センサーを表示):** インターコムのドア開センサーの状態を表示します。

HTTPコマンド

ディスプレイのホーム画面、通話中、カメラのプレビューに表示されるボタンを作成します。

HTTPコマンドの設定は、ホーム画面、通話中、外部カメラで同じです。

- **Command (コマンド):** 各ボタン表示エリアに最大3つのコマンドを設定できます。
- **URL:** ボタンを押したときに外部デバイスに送信するHTTPコマンドを設定します。コマンド形式はhttp://ip-address/pathです (例: http://192.168.1.50/relay1=on)。コマンドを送信しない場合はパラメーターを0に設定してください。
- **アイコン:** HTTPコマンドボタンのアイコンを選択します。
- **名前:** HTTPコマンドの名前を入力します。
- **Username (ユーザー名):** スイッチの有効化または無効化時に送信されるHTTPコマンドのユーザー名を設定します。認証が必要な場合にのみ設定する必要があります。
- **パスワード:** スイッチの有効化または無効化時に送信されるHTTPコマンドのパスワードを設定します。

ユーザーサウンド

サウンドマッピング

Sound message language (音声メッセージの言語):音声メッセージの言語を選択します。マッピングされたサウンドに翻訳がある場合、メッセージは指定された言語で再生されます。それ以外の場合は、英語または言語に依存しないサウンドとして再生されます。

サウンドマッピング

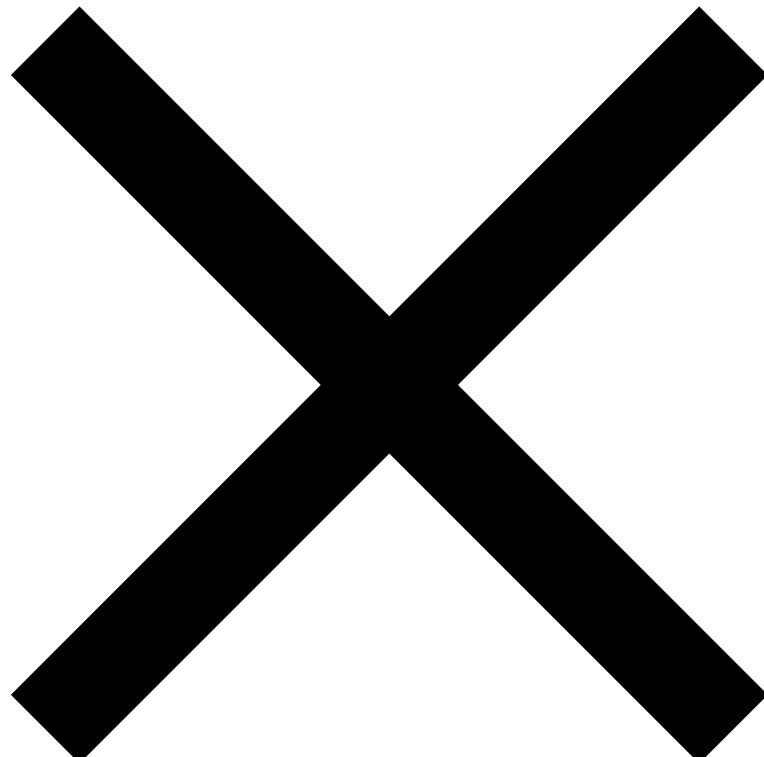
- **Busy Tone (ビジートーン):**発信先のユーザーがビジー状態のときに再生するトーンを選択します。
- **Call End Signaling (通話終了信号):**通話終了時に再生するサウンドを選択します。
- **Ringtone (着信音):**発信先のユーザーが呼び出し中に再生するリングバックトーンを選択します。
- **Ringing Before Call Answering (電話応答前の呼び出し音):**着信に応答する前に再生する着信音を選択します。
- **Doorbell (ドアベル):**誰かがドアベルのボタンを押したときに再生するサウンドを選択します。
- **Out-of-office message (不在メッセージ):**電話に応答できなかった場合に再生するメッセージを選択します。
-  : クリックすると選択したサウンドが再生されます。

サウンドのアップロード

サウンドのアップロード

デバイスには、最大10個の音声ファイルを追加できます。

- **名前:** 音声ファイルを見つけやすいよう、音声ファイルの名前を追加します。
- **Size (サイズ):** アップロードされた音声ファイルのサイズ。
- ▶ クリックすると、アップロードした音声ファイルがPCでローカル再生されます。



- : クリックすると、ファイルが削除されます。
- : [Sound Mapping (サウンドマッピング)] タブで使用可能なサウンドを録音します。
- : クリックすると、[Sound Mapping (サウンドマッピング)] タブで使用可能な音声ファイルをデバイスにアップロードすることができます。

Webサーバー

基本設定

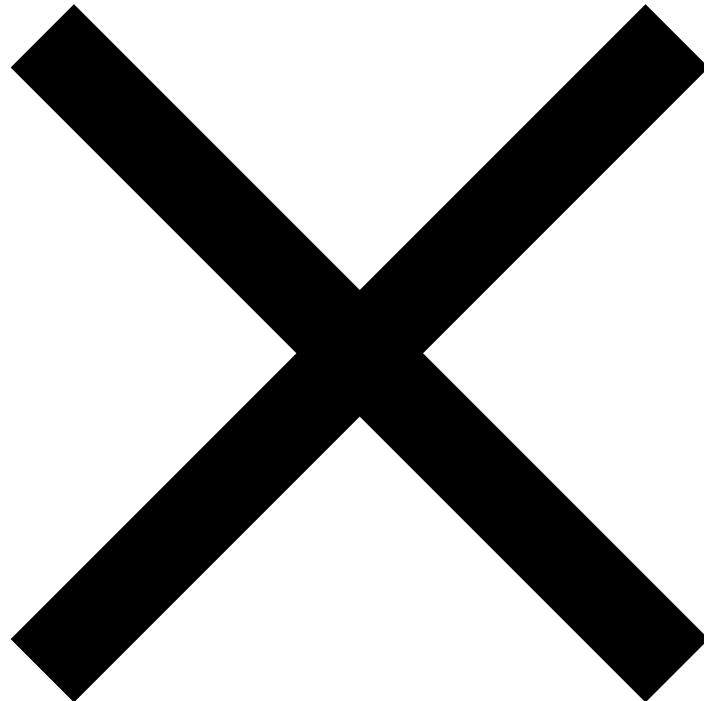
- **Device name (デバイス名)**: デバイスのWebインターフェース、ログインウィンドウ、およびその他のアプリケーションに表示される名前を設定します。
- **Web Interface Language (Webインターフェースの言語)** : 管理Webサーバーログインのデフォルト言語を設定します。
- **パスワード**: デバイスのパスワードを設定します。  をクリックしてパスワードを変更します。パスワードには、小文字1文字、大文字1文字、数字1つを含め、合計8文字以上が含まれている必要があります。

高度な設定

- **HTTP Port (HTTPポート)**: HTTP通信用のWebサーバーポートを設定します。この値を変更した場合、デバイスを再起動するまで反映されません。
- **HTTPS Port (HTTPSポート)**: HTTPS通信用のWebサーバーポートを設定します。この値を変更した場合、デバイスを再起動するまで反映されません。
- **Lowest Allowed TLS Version (許可される最低TLSバージョン)** : デバイスが接続に使用する最低TLSバージョンを設定します。
- **HTTPS Server Certificate (HTTPSサーバー証明書)**: デバイスのHTTPSサーバーとユーザーのWebブラウザ間の通信の暗号化に使用するサーバー証明書と秘密鍵を選択します。
- **Remote Access Enabled (リモートアクセスの有効化)**: LAN外のIPアドレスからデバイスのWebサーバーへのリモートアクセスを有効にします。

ユーザーカライゼーション

- **Original Language (元の言語)**:  をクリックすると、デバイスからオリジナルのXMLファイルをダウンロードできます。このXMLファイルには、すべてのユーザーインターフェースのテキスト(英語)が含まれています。
- **Custom Language (カスタム言語)**:



- をクリックすると、ユーザーインターフェースのテキストの翻訳を含むカスタム言語ファイルが削除されます。
-  をクリックすると、ユーザーインターフェースのテキストの翻訳を含むカスタム言語ファイルがダウンロードされます。
-  をクリックすると、ユーザーインターフェースのテキストの翻訳を含むカスタム言語ファイルがアップロードされます。

天気

設定

- **Show Weather (天気を表示)**: デバイスがディスプレイのホーム画面に現在の天気情報を表示できるようにします。
- **Location (場所)**: デバイスに表示する天気予報の場所を設定します。[Show Weather (天気を表示)] を選択し、[Location (場所)] を空欄にした場合、デフォルトでプラハの天気が表示されます。
- **Location Shown (場所の表示)**: 天気情報とともに表示する場所の名前を入力します。空欄の場合は、天気予報の場所の名前が表示されます。
- **Temperature Units (温度の単位)**: 温度を摂氏 (° C) で表示するか華氏 (° F) で表示するかを選択します。

効果

- **Last Update (最終更新日)**: サーバーデータの最終更新日を表示します。
- **Location Found (特定された場所)**: 天気サービスによって特定された天気予報の場所を表示します。
- **Country (国名)**: ユーザーが入力した場所の国、またはデフォルトの場所を表示します。

ハードウェア

音声

通話時の音量

- **Call Volume (通話時の音量)**: 通話時の音量を選択します。
- **Ringtone Volume (着信音の音量)**: マスター音量を基準とした着信音の音量を選択します。
- **Call-Progress Tone Volume (コールプログレストーンの音量)**: ダイヤルトーン、リングバックトーン、ビジートーンの音量レベルを選択します。ただし、PBXが自動的にコールプログレストーンを生成する場合は、この設定は適用されません。

信号音量

- **Warning Tone Volume (警告音音量)**: マスター音量を基準とした警告音と信号音の音量を選択します。
- **Suppress Waning Tones (警告音の抑制)**: 次の動作状態に対する信号音を抑制します。内部アプリケーションの起動、IPアドレスの受信、IPアドレスの喪失。
- **User Sounds Volume (ユーザーサウンド音量)**: マスター音量を基準とした、自動再生されるユーザーサウンドの音量を選択します。

カメラ

注

最大16台のビデオ通話ストリーム用外部カメラを設定できます。応答ユニットでは、次の要件を満たす標準IPビデオカメラからのRTSPストリームを使用できます。

- H.264またはMJPEGビデオコーデック
- 最大解像度1280x720
- 最大フレームレートがH.264で30フレーム/秒、MJPEGで15フレーム/秒
- H.264コーデックで5000 kbpsのビットレートを使用するハイプロファイル

1, 2, 3, 4...: ネットワーク内のデバイスに割り当てることができる外部IPカメラの設定ページ。最大16台のカメラを割り当てることができます。クリックするとページが開きます。

Camera Enabled (カメラの有効化): 応答ユニットが外部IPカメラからのRTSPストリームを使用できるようにします。

Camera Assignment (カメラの割り当て):

- **+** をクリックしてデバイスのリストを開き、カメラを割り当てるデバイスを選択します。これらのデバイスのいずれかとの通話中に、選択したカメラのプレビューを応答ユニットに表示したり、割り当てられて許可されている他のカメラのプレビュー間で切り替えたりすることができます。
- **X** をクリックすると、選択したカメラに割り当てたデバイスをすべて削除できます。

設定

- **Display name (ディスプレイ名):** デバイスのディレクトリにカメラのプレビューで表示する名前を設定します。このフィールドを空欄にした場合、代わりに選択した言語のデフォルト名が表示されます。
- **RTSP Stream Address (RTSPストリームアドレス):** IPカメラのRTSPストリームのIPアドレスを `rtsp://camera_ip_address/parameter1=value¶meter2=value` の形式で入力します。パラメーターの例については以下の表を参照してください。パラメーターは選択したIPカメラモデルに固有です。

パラメーター	説明	例/値
音声	音声	- -
フレーム/秒	フレームレート	<code>fps=15</code>
vbr	ビデオビットレート	<code>vbr=768</code> 768kbps用
vcodec	ビデオコーデック	<code>vcodec=h264</code> H.264用 <code>vcodec=mjpeg</code> コーデック MJPEG用
vres	ビデオ解像度	<code>vres=1920x1080</code> FullHD用
zipstream	zipstream	- - - - -

- **Username (ユーザー名):** 外部IPカメラに接続するためのユーザー名を入力します。これは、カメラが認証を必要とする場合にのみ必要です。
- **パスワード:** 外部IPカメラに接続するためのパスワードを入力します。
- **Local RTP Port (ローカルRTPポート):** RTPストリーム受信用のローカルUTPポートを指定します。
- **State (状態):** 外部IPカメラへの現在の接続状態を表示します。
- **Stream (ストリーム):** 受信したストリームのパラメーターを表示します。

Camera Preview (カメラプレビュー)

外部カメラからの現在の画像を表示します。カメラが切断されている場合、または正しく設定されていない場合は、黒い背景に「N/A」と表示されます。

外部IPカメラログ

選択した外部IPカメラとのRTSP通信を表示します(発生した障害やエラーの状態を含む)。

ディスプレイ

基本設定

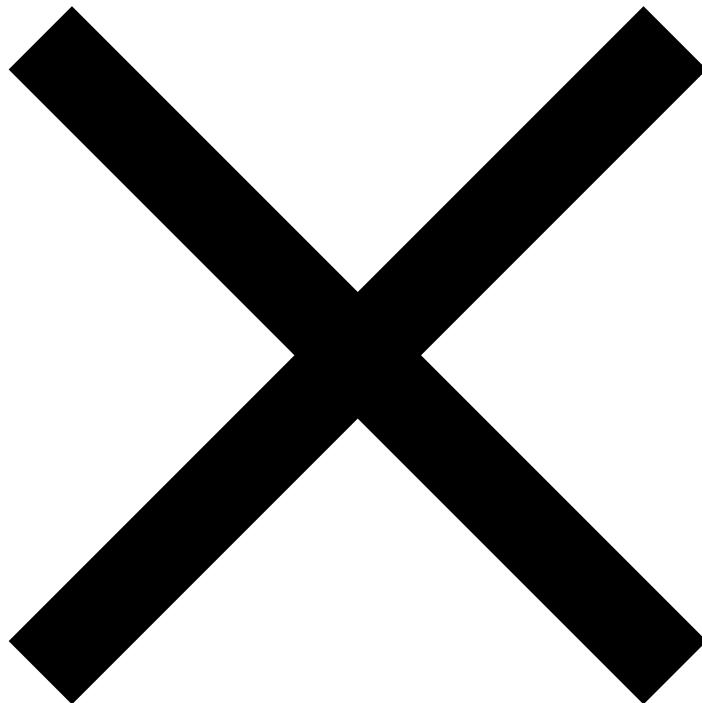
- **Language (言語)**: ディスプレイの言語を選択します。既定の言語から選択するか、以前にアップロードした言語ファイルからカスタム言語を選択します。言語ファイルのアップロードに関する情報については、[を参照してください。](#)
- **Date Format (日付形式)**: ディスプレイに表示する日付形式を選択します。
- **Time Format (時刻形式)**: ディスプレイに表示する時刻形式を選択します。
- **Enable Screen Lock (画面ロックを有効にする)**: デバイスがアイドルモードのときに画面ロックを有効にします。
- **Screen Lock PIN (画面ロックPIN)**: 画面のロックを解除するための4桁の暗証番号を設定します。1~9の数字を使用します。
- **Advanced Settings Code (高度な設定コード)**: ディスプレイの [Advanced Settings (高度な設定)] へのアクセスコードを設定します。コードを入力しないと、デバイスのディスプレイで高度な設定を開くことができません。
- **Device mode (デバイスマード)**: [Hotel (ホテル)] モードまたは [Normal (ノーマル)] モードを選択します。
 - [Hotel (ホテル)] モードでは、デバイスのユーザーインターフェースがよりシンプルになり、一部の機能がノーマルモードとは異なる動作をします。デバイスを使用してプリセットの連絡先に発信したり、着信を受けたりできます。時刻と天気も表示されます。ただし、その他の多くの機能には制限があります。デバイスからは「Do Not Disturb (サイレント)」モードを設定できず、ディレクトリ、通話記録、設定メニューにもアクセスできません。さらに、天気設定へのクイックアクセスを利用できず、不在着信やドアの接触状態などに関する通知も表示されません。
- **Display Setting Menu (ディスプレイ設定メニュー)**: ディスプレイに [Setting (設定)] メニューを表示してアクセスできるようにします。[Display Setting Menu (ディスプレイ設定メニュー)] を無効にした場合、Webおよびリモートアクセスを介してのみデバイスを設定できます。
- **Display Time In Idle Mode (アイドルモード時に時刻を表示)**: アイドルモード時に、デバイスに時刻を表示する場合に選択します。

輝度

- **Intensity in Active Mode (アクティブモード時の輝度)**: バックライトの輝度を設定します。最大輝度に対するパーセンテージで値を選択します。
- **Lower Intensity in Idle Mode To (アイドルモード時に輝度をこのレベルに低減)**: デバイスがアイドルモードになるときのバックライトの輝度を設定します。
- **Go to Idle Mode In (アイドルモードに切り替わるまでの時間)**: 操作が行われない場合にデバイスがアイドルモードに切り替わるまでのタイムアウト時間を設定します。

ユーザーコライゼーション

- **Original Language (元の言語)**:  をクリックすると、ローカライゼーションファイルのテンプレート (表示されるすべての英語テキストを含むXMLファイル) をダウンロードできます。独自の翻訳を作成する場合は、このテンプレートを使用します。
- **Custom Language (カスタム言語)**:



- をクリックすると、ローカライゼーションファイルが削除されます。
-  をクリックすると、ローカライゼーションファイルがダウンロードされます。
-  をクリックすると、ローカライゼーションファイルがアップロードされます。

デジタル入力

ドアベルボタン

- **Doorbell Button Function (ドアベルボタンの機能)**: ドアベルの機能を選択します。このボタンは、従来のドアベルとしても、アラームコールの起動用としても使用できます。
- **Camera Assigned to Doorbell (ドアベルに割り当てるカメラ)**: ドアベルが鳴ったときに表示する外部カメラを選択します。カメラのプレビューが通話中や着信中に中断されることはありません。通話または着信に戻るには、ディスプレイ上部の緑色のバーをタップします。ドアベルを確認しなかった場合、デバイスに警告が表示され、通話記録に履歴が追加されます。

システム

ネットワーク

ベーシック

Use DHCP server (DHCPサーバーの使用): 選択すると、LAN DHCPサーバーからIPアドレスが自動的に取得されます。ネットワーク内にDHCPサーバーが存在しない、または利用できない場合は、手動でネットワーク設定を行ってください。

静的IPアドレスの設定

- **Static IP Address (静的IPアドレス)**: デバイスの静的IPアドレスを入力します。
- **Network Mask (ネットワークマスク)**: ネットワークマスク (サブネットマスク) を入力します。
- **Default Gateway (デフォルトゲートウェイ)**: オフLAN通信のためのデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNS設定

- **Always Use Manual Setting (常に手動設定を使用)**: DNSサーバーのアドレスを手動で設定する場合に選択します。
- **Primary DNS (プライマリDNS)**: ドメイン名をIPアドレスに変換するためのプライマリDNSサーバーのアドレスを入力します。
- **Secondary DNS (セカンダリDNS)**: プライマリDNSが利用できない場合に使用する、セカンダリDNSアドレスを入力します。

ネットワークの識別

- **ホスト名**: デバイスのLAN識別情報を設定します。
- **Vendor Class Identifier (ベンダークラス識別子)**: DHCP Option 60 の製造者識別子を文字列として設定します。

VLANの設定

- **VLAN Enabled (VLANの有効化)**: 仮想ネットワークサポート (802.1qに準拠したVLAN) を使用する場合に選択します。VLAN IDも設定する必要があります。
- **VLAN ID**: 1~4094の範囲でVLAN IDを入力します。デバイスは設定したIDのパケットのみを受信できます。設定を誤ると接続が切断される場合があります。

ネットワークインターフェースの設定

- **Required Port Mode (必要なポートモード)**: [Automatically (自動)] または [Half Duplex (半二重) - 10 Mbps] のいずれかのネットワークインターフェースポートモードを選択します。利用可能なLANケーブルの信頼性が100Mbpsのトラフィックに対して不十分な場合、ビットレートは10Mbpsに低下します。
- **Advertised Modes (アドバタイズメントモード)**: オートネゴシエーション中にアドバタイズするためのモードを選択します。
- **Current Port State (現在のポートの状態)**: 現在のLANポートのステータスを表示します。

802.1x

デバイスID

- **Device identity (デバイスID)**: EAP-MD5およびEAP-TLSを介した認証用のユーザー名を入力します。

MD5認証

- **Authentication enabled (認証の有効化)**: ネットワークデバイスの認証に802.1x EAP-MD5プロトコルを使用します。ネットワークが802.1xに対応していない場合にこのオプションを選択すると、デバイスは使用できなくなります。
- **パスワード**: EAP-MD5認証へのアクセス用パスワードを入力します。

TLS認証

- **Authentication enabled (認証の有効化)**: ネットワークデバイスの認証に802.1x EAP-TLSプロトコルを使用します。ネットワークが802.1xに対応していない場合にこのオプションを選択すると、デバイスは使用できなくなります。
- **Trusted Certificate (信頼できる証明書)** : RADIUSサーバーの公開証明書の有効性を確認するため、信頼できる証明書を選択してください。信頼できる証明書を含めない場合、RADIUSの公開証明書は検証されません。
- **Client certificate (クライアント証明書)** : ユーザー証明書と秘密鍵を選択して、LAN内の802.1xで保護されたネットワークエレメントポートを介した通信に対する応答ユニットの認証を検証します。

PEAP MSCHAPv2認証

- **Authentication Allowed (認証許可)**: ネットワークデバイスの認証に802.1x PEAP MSCHAPv2プロトコルを使用します。ネットワークが802.1xに対応していない場合にこのオプションを選択すると、デバイスは使用できなくなります。
- **Trusted Certificate (信頼できる証明書)** : RADIUSサーバーの公開証明書の有効性を確認するため、信頼できる証明書を選択してください。信頼できる証明書を含めない場合、RADIUSの公開証明書は検証されません。
- **パスワード**: PEAP-MSCHAPv2認証へのアクセス用パスワードを入力します。

日付と時刻

応答ユニットには、停電時のバックアップがないリアルタイムクロックが搭載されています。

注

デバイスの基本的な機能には、現在の日付と時刻の値は不要です。ただし、正確な日付と時刻の値は、時間プロファイルなどの機能や、Syslog、カードエントリー、HTTP API経由で取得されたログなどを含め、ログの正しいイベントタイムスタンプを保証するために非常に重要です。

現在の時刻

- **Use Time From the Internet (インターネットの時刻を使用)**: 選択すると、デバイスの時刻がインターネットと同期されます。

重要

最大限の精度と信頼性を確保するため、[Use time from Internet (インターネットの時刻を使用)] を選択することをお勧めします。通常の動作条件下におけるデバイスの時刻の誤差は1ヶ月あたり最大±2分です。

- **Current Device Time (デバイスの現在時刻)**: デバイスの現在時刻を表示します。
- **Synchronize With Browser (ブラウザとの同期)**: クリックすると、現在のPCの時刻と同期されます。

タイムゾーン

- **Automatic Detection (自動検知)**: My2Nからタイムゾーンを自動的に検出する場合に選択します。このオプションをオフにする場合は、手動選択オプションを使用してタイムゾーンを手動で選択するか、独自のカスタムルールを適用します。
- **Detected Time Zone (検出されたタイムゾーン)** : 自動的に検出されたタイムゾーンを表示します。機能が利用できない場合、またはオフになっている場合は、N/Aと表示されます。
- **Manual Selection (手動選択)** : 現地のタイムゾーンを選択して、時刻のずれや夏時間の調整を行います。
- **Custom Rule (カスタムルール)** : [Manual Selection (手動選択)] に含まれていない場所にデバイスが設置されている場合は、カスタムルールを設定します。[Manual Selection (手動選択)] ドロップダウンメニューで [Custom Rule (カスタムルール)] が選択されていることを確認してください。

NTPサーバー

- **NTP Server Address (NTPサーバーアドレス)**: デバイスの内部クロックの同期に使用するNTPサーバーのIPアドレスまたはドメイン名を入力します。
- **NTP Time Status (NTPタイムステータス)**: NTP経由で最後にローカル時刻を同期した際のステータスを表示します。

機能

ベータ版の機能

このリストには、ユーザーテスト用に設計された、公開済みベータ版機能が記載されています。

重要

テスト機能は保証対象外であり、Axisはベータ版機能の制限およびその制限により生じた損害について一切の責任を負いません。ベータ版の機能は、テスト目的のみで提供されます。

- **名前**: 機能の名前。
- **State (状態)**: 機能のステータス (作動/停止)
- **Action (アクション)**: 機能を作動/停止するイベント

デバイスを再起動すると、機能ステータスが変わります。デバイスを再起動する前に [Cancel (キャンセル)] アクションを使用して、ステータス変更要求を取り消します。

証明書

一部のLANサービスでは、他のLANデバイスとの安全な通信にTLSプロトコルを使用します。このプロトコルは、通話内容の盗聴や改ざんを防止します。TLSは、証明書と秘密鍵を必要とする単方向または双方向の認証に基づいています。

以下のデバイスサービスは、TLSプロトコルを使用します。

- Webサーバー (HTTPS)
- 802.1x (EAP-TLS)
- SIP

初めて電源を入れると、デバイスはWebサーバーとサービス用の自己署名証明書と秘密鍵を自動的に作成します。ユーザーが独自の証明書と秘密鍵をアップロードする必要はありません。通信デバイスを認証するために認証局からの証明書を最大3セット、暗号化目的でユーザー証明書と秘密鍵を最大3セットアップロードできます。

証明書を必要とする各サービスには1つの証明書セットを割り当てることができます、証明書はサービス間で共有できます。デバイスは、DER (ASN1) およびPEM証明書形式に対応しています。

注

自己署名証明書を使用してデバイスのWebサーバーとブラウザの通信を暗号化した場合、通信は安全ですが、ブラウザにデバイス証明書の有効性を確認できないという警告が表示されます。

CA証明書

CA Certificates (CA証明書)

- : クリックすると、ローカルPCに保存されている証明書をアップロードできます。
 - Certificate ID (証明書ID): 証明書を選択、変更、または削除するときに識別に使用する証明書IDを入力します。
 - Select File...(ファイルを選択...): クリックしてPCからファイルを参照し、選択します。
 - Upload (アップロード): クリックして、証明書をアップロードします。
- : クリックすると、デバイスから1つ以上の証明書を削除できます。
- : クリックすると、リストで選択した証明書に関する詳細情報を読むことができます。

ユーザー証明書

ユーザー証明書

-  : クリックすると、ローカルPCに保存されている証明書をアップロードできます。
 - **Certificate ID (証明書ID)**: 証明書を選択、変更、または削除するときに識別に使用する証明書IDを入力します。
 - **ユーザー証明書**
 - **Select File...(ファイルを選択...)**: クリックしてPCからファイルを参照し、選択します。
 - **秘密鍵**
 - **Select File...(ファイルを選択...)**: クリックしてPCからファイルを参照し、選択します。
 - **Private Key Password (秘密鍵のパスワード)**: 秘密鍵の認証にパスワードが必要な場合に、パスワードを入力します。
 - **Upload (アップロード)**: クリックして、証明書と秘密鍵をアップロードします。
-  : クリックすると、デバイスから1つ以上の証明書を削除できます。
-  : クリックすると、リストで選択した証明書に関する詳細情報を読むことができます。

自動プロビジョニング

My2N

My2N Enabled (My2Nの有効化): My2Nへの接続を有効にします。My2Nクラウドプラットフォームを使用することで、デバイスのWebインターフェースにリモートアクセスし、2N IPデバイスをリモートで管理・設定できます。

My2Nセキュリティコード

- **Serial Number (シリアル番号)**: 有効なMy2Nコードが適用されるデバイスのシリアル番号を表示します。
- **My2N Security Code (My2Nセキュリティコード)**: My2Nにデバイスを追加するためのコードを表示します。
- **Generate New (新規コードを生成)**: クリックすると現在のMy2Nセキュリティコードが無効になり、新規コードが生成されます。

Connection State (接続ステータス):

My2Nへの接続に関するステータスマッセージを表示します。

- **My2N ID**: My2Nポータルで作成された会社の一意の識別子を表示します。

TR069

このタブを使用して、TR-069プロトコルを介したリモートデバイス管理を有効にし、設定します。

My2N / TR069 Enabled (My2N / TR069の有効化): My2Nまたはその他のオートコンフィグレーションサーバー(ACS)に接続するには、このオプションを有効にします。

一般設定

- **Active Profile (有効なプロファイル):** 既定のプロファイルを選択するか、[Custom Setting (カスタム設定)] を選択してオートコンフィグレーションサーバー(ACS)への接続を手動で設定します。
- **[Next Synchronization In (次の同期までの時間):** リモートACSとの次回同期までの時間を表示します。
- **Connection State (接続ステータス):** ACSへの接続の現在のステータスを表示します。
- **Communication Status Detail (通信状態の詳細):** サーバー通信エラーコードまたはHTTPステータスコードを表示します。
- **Connection test (接続テスト):** クリックすると、設定されたプロファイルに基づいてTR069接続のテストが実行されます。テストの結果は [Connection State (通信状態)] に表示されます。

診断

診断パッケージ

ステータスやパケットサイズなど、パケットキャプチャーおよびSyslogキャプチャーに関する情報を表示します。

- **Packet Capture Status (パケットキャプチャーの状態):** [Packet Capture (パケットキャプチャー)] タブにパケットキャプチャーが開始されているかどうかが表示されます。
- **Size of Captured Packets (キャプチャーされたパケットのサイズ):** キャプチャーされたパケットのサイズを表示します。
- **Syslog Capture State (Syslogキャプチャーの状態) :** [Syslog] タブにSyslogキャプチャーが開始されているかどうかが表示されます。
- **Duration of Captured Syslogs (Syslogsキャプチャーの継続時間):** [Syslog] タブに、Syslogメッセージがキャプチャーされる時間の長さが表示されます。
- **Size of Captured Syslogs (キャプチャーされたSyslogのサイズ):** キャプチャーされたSyslogメッセージのサイズを表示します。
- **Stop Syslog Capture (ログキャプチャーの停止):** パケットキャプチャーの時間を設定します。
- **診断パッケージの制御**
 -  : 診断データのキャプチャーを開始します。すでに実行されている場合はパケットキャプチャーを再起動します。
 -  : キャプチャーした診断データのZIPファイルをダウンロードします。

ツール

- **Ping :** クリックして [Address (アドレス)] フィールドにIPアドレスを入力します。[Ping] を再度クリックして、IPアドレスにテストデータを送信します。

パケットキャプチャー

ローカルパケットキャプチャー

- **Current State (現在の状態)**: ローカルパケットキャプチャーが開始されたか停止されたかを表示します。
- **Buffer size (バッファサイズ)**: 使用可能なバッファサイズを表示します。
- **Buffer Utilization (バッファ使用量)**: バッファの使用量を表示します。
- **Number of Captured Packets (キャプチャーされたパケットの数)**: キャプチャーされたパケットの数を表示します。
- **パケットキャプチャーの制御**
 -  : クリックすると、ローカルパケットキャプチャーが開始します。すでに実行されている場合はパケットキャプチャーを再起動します。
 -  : クリックすると、キャプチャーが停止します。
 -  : クリックすると、パケットキャプチャーファイルがダウンロードされます。

リモートパケットキャプチャー

- **Current State (現在の状態)**: リモートパケットキャプチャーが開始されたか停止されたかを表示します。
- **Count of Sent Packets (送信済みパケット数)**: 送信されたパケットの数を表示します。
- **Count of Sent Bytes (送信済みバイト数)**: 送信されたパケットのサイズを表示します。
- **Remaining Time (残り時間)**: 残りのキャプチャー時間を表示します。
- **パケットキャプチャーの制御**
 -  : クリックすると、リモートパケットキャプチャーが開始します。ダイアログで、送受信パケットのキャプチャー時間(秒単位)を設定します。[OK]をクリックすると、キャプチャーが開始します。
 -  : キャプチャーを停止します。

Syslog

Syslogサーバーの設定

- **Send Syslog Messages (Syslogメッセージを送信)**: 選択すると、Syslogサーバーにsyslogメッセージが送信されます。サーバーアドレスが有効であることを確認してください。
- **Server Address (サーバーアドレス)**: Syslogアプリケーションを実行するサーバーのIPアドレスまたはMACアドレスを入力します。
- **Severity Level (重要度)**: 送信するメッセージの重要度を選択します。 [Debug 1-3] の設定は、テクニカルサポート部門のトラブルシューティングを支援する目的でのみ推奨されます。

ローカルSyslogメッセージ

ローカルのSyslogメッセージの保存状況やメッセージサイズなど、一般的なステータスの概要を表示します。

- **Required Saving Time (必要な保存期間)**: Syslogメッセージの保存期間を選択します。
- **Syslogメッセージの保存制御**
 - : クリックするとSyslogメッセージの保存を開始します。
 - : クリックするとSyslogメッセージの保存を停止します。
 - : クリックすると、Syslogメッセージがダウンロードされます。
 - : クリックすると、デバイスにローカル保存されたSyslogメッセージが削除されます。

メンテナンス

設定

- **Upload Configuration File to Device (デバイスに設定ファイルをアップロードする):** [Restore Configuration (設定を復元)] をクリックして、以前のバックアップから設定を復元します。開いたダイアログで設定ファイルを選択し、デバイスにアップロードします。アップロードする前に、LAN設定とSIP PBX接続設定を適用するかどうかを決定します。

重要

ログインパスワードは設定ファイルに保存されます。パスワードがファイル内でエンコードされていない場合、またはデフォルトのパスワード(2n)を使用している場合は、設定の有効な部分のみがアップロードされ、パスワードは変更されません。

- **Download Configuration File from Device (デバイスから設定ファイルをダウンロードする):** [Back Up Configuration (設定のバックアップ)] をクリックして、デバイスの現在のすべての設定をバックアップします。すべての設定がストレージにダウンロードされます。

注

設定ファイルには、ユーザーの電話番号やアクセス用パスワードなどの機密情報が含まれている可能性があるため、十分に注意して取り扱ってください。

- **Reset Configuration to Default State (設定をデフォルト状態にリセットする):** [Reset Configuration (設定をリセット)] をクリックすると、LANの設定を除くデバイスのすべての設定がリセットされます。LANの設定を含むフルリセットを行う場合は、[RESET (リセット)] ボタンを使用してデバイスをリセットします。詳細については、[を参照してください](#)。

システム

バージョンやビルドの日付など、デバイスソフトウェアの概要が表示されます。

- **Upgrade Device Firmware (デバイスソフトウェアのアップグレード):** [Upgrade Firmware (ファームウェアのアップグレード)] をクリックして、表示されるダイアログでアップロードするファームウェアファイルを選択します。アップロードが成功すると、デバイスは自動的に再起動します。このプロセスは通常1分以内で完了し、設定には影響しません。
デバイスの最新のファームウェアバージョンは、axis.com/support/device-software で確認できます。デバイスはファームウェアファイルをチェックし、不正なファイルや破損したファイルのアップロードを防止します。
- **Firmware Status (ファームウェアのステータス):** ファームウェアの新しいバージョンが利用可能かどうかを表示します。新しいバージョンが利用可能な場合は、[Upgrade Now (今すぐアップグレード)] をクリックしてアップグレードしてください。デバイスが新しいバージョンを見つけられない場合は、[Check Now (今すぐ確認)] をクリックすると新しいバージョンがあるか確認できます。
- **Notify of Beta Versions (ベータ版の通知)** 最新のファームウェアのベータ版を監視してダウンロードするには、このオプションを選択します。
- **Restart Device (デバイスを再起動):** クリックするとデバイスが再起動します。所要時間は約30秒です。再起動が完了し、デバイスにIPアドレスが割り当てられると、ログインウィンドウが自動的に表示されます。
- **Third Party Library License (サードパーティライブラリライセンス):** [Show (表示)] をクリックすると、使用ライセンスとサードパーティライブラリの一覧、および使用許諾契約書(EULA)へのリンクを示すダイアログが表示されます。

使用状況に関する統計

- **Send Anonymous Statistics Data (匿名統計データを送信):** デバイスの使用状況に関する匿名の統計情報をメーカーに送信するように設定します。パスワード、アクセスコー

ド、電話番号などの機密情報は含まれません。このデータの共有は、メーカーによるソフトウェアの品質、信頼性、パフォーマンスの向上に役立ちます。参加は任意であり、いつでも統計情報の送信を停止することができます。

ディスプレイインターフェース

ホーム画面

ホーム画面はデバイスのスタート画面です。操作が行われない場合、デバイスは設定された時間後に自動的にアイドルモードに切り替わります。

Date and time (日付と時刻): 設定された場所の日付と時刻を表示します。

 : 設定された場所の天気情報を表示します。

 : 「Do Not Disturb (サイレント)」モードが有効です。着信音が消音されます。切り替えるとオフになります。

 : 「Do Not Disturb (サイレント)」モードが無効です。切り替えるとオンになります。

 **CALL LOG (通話記録)**: タップすると、デバイスのすべての発信および着信を含む通話記録が表示されます。詳細については、[を参照してください](#)。

 : タップすると、連絡先と接続されている外部カメラのリストに移動します。詳細については、[を参照してください](#)。

 **SETTINGS (設定)**: タップすると、言語やサウンドなど、デバイスの設定に移動します。詳細については、[を参照してください](#)。

通話記録

 : 発信の日付、時刻、発信先に関する情報を表示します。

 : 着信の日付、時刻、発信者に関する情報を表示します。

 : 不在着信の日付、時刻、発信者に関する情報を表示します。

 : クリックすると、通話に関する詳細情報と、利用可能な場合はカメラのプレビューが表示されます。

DELETE ALL (すべて削除)  : クリックすると、記録のすべての通話が削除されます。

アドレス帳

⌚ : タップすると、選択した連絡先に発信します。

🔓 : タップすると、選択したデバイスに設定済みのロック解除コードが送信されます。ロック解除コードが選択したデバイスに対応している場合、そのデバイスのロックが解除されます。ロック解除コードが設定されていない場合は、デフォルトのロック解除コードが選択したデバイスに送信されます。

👁️ : タップすると、選択したデバイスのビデオのプレビューが表示されます（利用可能な場合）。

🕒 : タップすると、連絡先が横一列に表示されます。

☰ : タップすると、連絡先が縦一列に表示されます。

設定



Display (ディスプレイ): タップすると、以下の設定を変更できます。

- **輝度**: ディスプレイのバックライトを設定します。
- **Screen timeout (画面タイムアウト)**: 画面がアイドルモードに変わるまでの時間を設定します。
- **Screen lock (画面ロック)**: 画面ロックをオンまたはオフにします。画面ロックをオンにする場合、4桁の暗証番号を選択する必要があります。



Sound (サウンド): タップすると、以下の設定を変更できます。

- **Ringing volume (着信音の音量)**: 着信音の音量を設定します。
- **Call volume (通話時の音量)**: 通話時のスピーカーの音量を設定します。
- **Ringtone (着信音)**: 着信時の着信音を選択します。
- **Doorbell tone (ドアベルの音)**: ドアベルの音を選択します。
- **Voice-mail (ボイスメール)**: デバイスに直接ボイスメールメッセージを設定します。
 - **Voice-mail (ボイスメール)**: ボイスメールメッセージを再生しない場合はオフに設定します。応答しなかった場合、通話は切断されます。
 - **Select recording (録音メッセージを選択)**: 録音メッセージを選択します。デフォルトのボイスメールメッセージを選択するか、カスタマイズしたメッセージを録音できます。
 - **Default Recording Language (デフォルトの録音メッセージの言語)**: デフォルトの録音メッセージ(デフォルトのボイスメールメッセージ)を選択した場合は、メッセージの言語を設定します。
 - **Enable visitor to leave message (訪問者によるメッセージの録音を有効にする)**: オンにすると、発信者がメッセージを録音してデバイスに保存できるようになります。ボイスメールメッセージが再生され、「ピー」という発信音の後、最長20秒間録音することができます。メッセージには、通話デバイスの機能に応じて、音声と映像の両方が記録されます。
 - **Ring Time Before Voicemail Activation (ボイスメール再生までの呼び出し時間)**: ボイスメールメッセージが再生されるまでの、着信のタイムアウトを設定します。



Date and time (日付と時刻): タップすると、以下の設定を変更できます。

- **Automatic date and time (日付と時刻の自動設定)**: オンにすると、日付と時刻がネットワークから自動的に取得されます。
- **Set time zone (タイムゾーンの設定)**: 現地のタイムゾーンを設定して、時刻のずれや夏時間の調整を行います。
- **Set date (日付の設定)**: 手動で日付を設定します。
- **Set time (時刻の設定)**: 手動で時刻を設定します。
- **Time format (時刻形式)**: ホーム画面の時刻表示を、12時間制または24時間制のどちらにするかを選択します。
- **Date format (日付形式)**: ホーム画面に表示する日付の形式を設定します。



Language (言語): タップすると、ディスプレイのインターフェースの言語を選択できます。既定の8つの言語の中から1つを選択できます。

- **Custom language (カスタム言語)**: タップすると、以前にアップロードした言語ファイルからカスタム言語を設定できます。言語ファイルのアップロードに関する情報については、を参照してください。



Do Not Disturb (サイレント) モード: タップすると、以下の設定を変更できます。

- **Do Not Disturb (サイレント) モード:** 「Do Not Disturb (サイレント)」モードのオンとオフを切り替えます。オンにすると、着信音が消音されます。デフォルトでは、「Do Not Disturb (サイレント)」モードがオンになっている場合でも、ドアベルの音が鳴ります。
- **Reject Calls in DND Mode (DNDモード時に着信を拒否):** オンにすると、デバイスが「Do Not Disturb (サイレント)」モードに設定されているときに着信が拒否されます。
- **Mute Doorbell in DND Mode (DNDモード時にドアベルをミュート):** オンにすると、デバイスが「Do Not Disturb (サイレント)」モードに設定されているときにドアベルが消音されます。



Weather (天気): タップすると、以下の設定を変更できます。

- **Show Weather (天気を表示):** オンにすると、ホーム画面に天気情報が表示されます。
- **Location (場所):** 天気予報の場所を設定します。
- **Units (単位):** 温度を摂氏 (° C) で表示するか華氏 (° F) で表示するかを選択します。



Advanced settings (高度な設定): アクセスコードを入力して高度な設定を開きます。デバイスのWebインターフェースで、アクセスコードを設定または変更します。詳細については、を参照してください。

- **ネットワーク設定**
 - **Use DHCP Server (DHCPサーバーの使用):** オンにすると、DHCPサーバーによるIPアドレスの割り当てが許可されます。
 - **Static IP Address Setting (静的IPアドレスの設定):** 静的IPアドレス、ネットワークマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。
 - **Required Port Mode (必要なポートモード):** 優先するネットワークインターフェースのポートモードを選択します。
 - **Advertised Modes (アドバタイズメントモード):** オートネゴシエーションでアドバタイズするモードを選択します。

ネットワーク設定の詳細については、を参照してください。

- **装置の再起動:** タップすると、デバイスが再起動します。



About (詳細情報): タップすると、デバイスに関する以下の詳細情報が表示されます。

- シリアル番号
- ソフトウェアバージョン
- MACアドレス
- IPアドレス

仕様

製品概要

ポート

サービス	ポート	プロトコル	Direction (方向)	デフォルト ではオンに なっています	設定可能	設定
802.1x	-	-	入出力	-	-	-
DHCP	68	UDP	入出力	x	-	-
DNS	53	TCP/UDP	入出力	x	-	-
エコー(デバイスの復旧)	8002	UDP	入出力	x	-	-
HTTP	80	TCP	入出力	x	x	
HTTPS	443	TCP	入出力	x	x	
ICUプロトコル用のマルチキャスト音声	8006	UDP	入力	x	-	-
ICUプロトコル用のマルチキャストビデオ	8008	UDP	入力	x	-	-
ICUプロトコル用のマルチキャストビデオ(ワイド)	8016	UDP	入力	x	-	-
NTPクライアント	123	UDP	入力	x	-	-
RTP+RTCPポート(SIP)	4900+ (64ポートの範囲)	UDP	入出力	-	x	
RTP+RTCPポート(外部カメラ)	4800+ (64ポートの範囲)	UDP	入出力	-	-	-
RTSPクライアント	554	UDP	入出力	-	x	
SLP	427	UDP	入出力	x	-	-
SIP	5060, 5062	TCP/UDP	入出力	-	x	
SIPS	6061	TCP	入出力	-	x	
Syslog	514	UDP	出力	-	-	-
My2N Knocker	443	TCP	出力	x	-	-

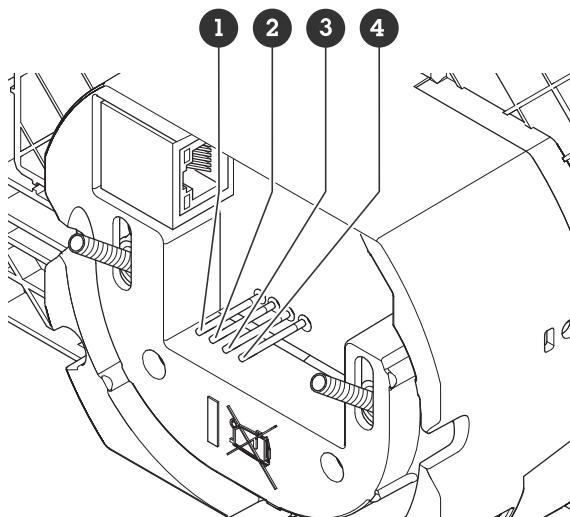
サービス	ポート	プロトコル	Direction (方向)	デフォルト ではオンに なっていま す	設定可能	設定
My2N Tribble Tunnel	10080	TCP	出力	x	-	-
Unitchann- el	8011	UDP	入出力	x	-	-
Sitechannel (ICUプロト コル)	8004	UDP	入出力	x	-	-
CWMP Stun	3478	UDP	出力	-	x	

コネクター

ネットワーク コネクター

Power over Ethernet (PoE) 対応RJ45イーサネットコネクター

電源およびドアベルのコネクター



機能	ピン	メモ	仕様
0 V DC (-)	1	DC入力	
12 V DC	2		1A
ドアベル入力	3	スイッチング接点 (ボ タン/リレー)、NO (ノーマルオープン)	
ドアベル入力	4		

ヒアリングループコネクター

ヒアリングループ用ライン出力、600 mV RMS。

ボタン

リセットボタン

リセットボタンには、以下のような機能があります。詳細については、こちらをご覧ください：

-
-
-
-

装置を清掃する

装置はぬるま湯で洗浄できます。

注意

- ・ 強力な化学薬品は装置を損傷する可能性があります。窓ガラス用洗剤やアセトンなどの化学薬品を使用して装置をクリーニングしないでください。
- ・ シミの原因となるため、直射日光や高温下での清掃は避けてください。
- 1. 圧縮空気を使用すると、装置からほこりやごみを取り除くことができます。
- 2. 必要に応じて、ぬるま湯に浸した柔らかいマイクロファイバーの布で装置を清掃してください。
- 3. シミを防ぐために、きれいな非研磨性の布で装置から水分を拭き取ってください。

トラブルシューティング

工場出荷時の設定にリセットする

Webインターフェースまたは[RESET (リセット)] ボタンを使用して、デバイスを工場出荷時の設定にリセットすることができます。

重要

工場出荷時の設定へのリセットは慎重に行ってください。工場出荷時の設定へのリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定が工場出荷時の値にリセットされます。

Webインターフェースを使用する:

1. [System (システム)]> [Maintenance (メンテナンス)] の順に移動します。
2. [Reset configuration (設定のリセット)] をクリックします。

[RESET (リセット)] ボタンを使用する:

1. [RESET (リセット)] ボタンを押し続けます。
2. 次の状態になったらボタンから手を離します。
 - 2.1. 赤色と緑色のLEDが同時に点灯し、音響信号  が聞こえる。これには約15～35秒かかります。
 - 2.2. 赤色のLEDが消灯し、音響信号   が聞こえる。これには、さらに約3秒かかります。
 - 2.3. 緑色のLEDが消灯し、赤色のLEDが再度点灯して音響信号    が聞こえる。これには、さらに約3秒かかります。
 - 2.4. 赤色のLEDが消灯し、音響信号     が聞こえる。これには、さらに約3秒かかります。
3. [RESET (リセット)] ボタンを放します。

デバイスを再起動

設定を変更せずにデバイスを再起動するには、次の3つの方法があります。

Webインターフェースを使用する:

1. [System (システム)] > [Maintenance (メンテナンス)] > [System (システム)] の順に移動します。
2. [Restart Device (デバイスを再起動)] をクリックします。

再起動には少し時間がかかります。完了すると、デバイスのディスプレイにホーム画面が表示されます。

デバイスのディスプレイを使用する:

1. [Settings (設定)] > [Advanced settings (高度な設定)] に移動します。
2. コードを入力すると高度な設定にアクセスできます。
高度な設定のアクセスコードは、デバイスのWebインターフェースで設定できます。詳細については、を参照してください。
3. [Restart Device (デバイスを再起動)] をタップします。
4. [RESTART (再起動)] をタップして確定します。

リセットボタンを使用する:

1. [RESET (リセット)] ボタンを約1秒間押します。

サポートに問い合わせる

さらにサポートが必要な場合は、axis.com/supportにアクセスしてください。

T10212854_ja

2025-11 (M2.2)

© 2025 Axis Communications AB